



Three Trees 紹介

対象
イベント参加者

共有日
2026-08-15

作成者
MISAKI MATSUO

VERSION

1.0

CONTENTS

3T.

①

会社概要
PJディベロッパー
とは

②

3Tガーナ
プロジェクト

③

3Tタンザニア
プロジェクト

④

3Tルワンダ
プロジェクト

⑤

まとめ

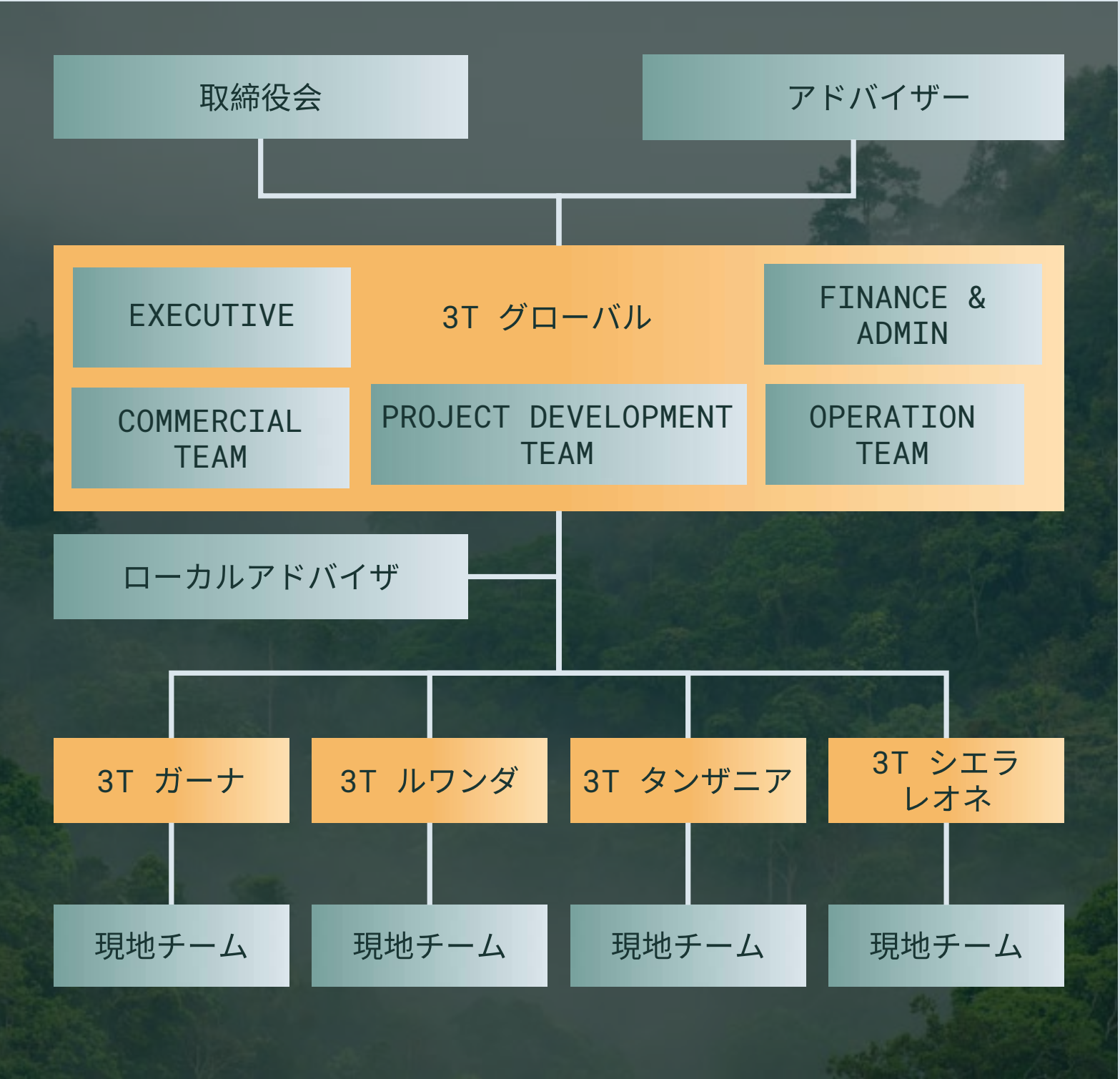
01

会社概要・PJディベロッパーとは

3T 会社情報

- 3Tは、ARR（アグロフォレストリー含む）を通じてカーボンクレジットを創出するグローバルカンパニー
- シンガポールで登記されており、現在は日本のお客様と共にアフリカでプロジェクト開発を行う

正式名	Three Trees Pte. Ltd.
名称	3T（スリーティ）
設立	2022年8月
登記住所	531A Upper Cross Street. #04-95 Hong Lim Complex. Singapore 051531
事業内容	高品質な自然系・除去系カーボンプロジェクトの開発
事業詳細	アフリカを中心に、環境植林による森林再生とアグロフォレストリーを組み合わせたプロジェクトの組成・投資機会の提供を行い、これらのプロジェクトから発行されるクレジットの販売も実施。
備考	プロジェクト設計においては、信頼性の高い「高品質クレジット」の創出に加え、地域住民への利益分配や生物多様性への配慮を重視し、共益と永続性のあるプロジェクト開発を目指す。
従業員数	約40名
活動地域	ガーナ、ルワンダ、タンザニア、シエラレオネ



チーム

3T.

国際的な経験と現地に根ざした強みを併せ持つ、実行力にあふれたチーム

3T グローバルチーム



清水 イアン | CEO

日本を代表する気候テック起業家。日系企業による NBS 投資を多数支援。『Forbes JAPAN Next 100 2024』選出。



ジョー・チョイ | COO/CFO

金融サービスで10年以上の経験。オックスフォード大学 環境マネジメント修士。グローバルのオペレーション&ファイナンスを統括。



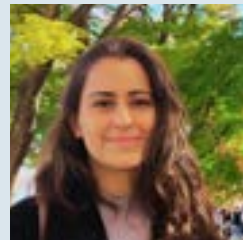
ソロモン・ヤモア | CDO

ガーナで10年以上の起業実績。現地大手環境 NPO元ディレクター。アフリカ全域の森林イニシアチブと連携。



松尾 美佐紀 | 技術ディレクター

元 Form International。ワーヘニンゲン大学森林政策学修士。プロジェクトの技術面を主導。



マギー・マクレア | モデル開発リード

東京大学博士。リモートセンシングと土地解析モデルの開発を主導。



イ・ジーン | 管理業務担当

東京大学卒。管理・財務・オペレーションを担当し、市場動向と投資機会を調査。

アドバイザー / 取締役



トム・カーナック | 社外取締役D

Bezos Earth Fundのシニアアドバイザー。世界の気候リーダー。「パリ協定の父」。



エスワー・マニ | 社外取締役D

気候ファイナンス専門家。元 Masdar、元 BNP Paribas。クリーンテックVC。再エネ案件で数十億ドルを組成。



キャロライン・ディラグー | 取締役会OBSV.

アフリカ拠点PEのグループCFO。総額20億ドルの森林ファンドを統括し、アフリカ全域で財務オペレーションを20年以上主導。



長谷川 雅也 | アドバイザー

日本最大級の不動産デベロッパーのMD。CDPQと共同で5億ドル規模の不動産ファンドを運営。

3T ナショナルディレクター



トム・アンスレ 3T ガーナ代表

M&E 専門家。ガーナにおける国際陸域プロジェクトを統括。政府ネットワークに精通。



マルコ・ンジャナ 3T タンザニア代表

森林・自然資源管理と森林炭素の専門家。政府機関・WCS等で森林炭素、NbSに20年以上従事。



フェリックス・ルランガ 3T ルワンダ代表

ルワンダ政府任命の森林再生フォーカルポイント経験。現場実務10年以上。



チャーリー・ヴィンセント 3T シエラレオネ代表代理

Miro・Restore Natureでの経験を含め、10年以上にわたるARRプロジェクトの経験。

現在のパイプライン

4つのプロジェクトを 東西アフリカで開発中

1,250 万 tCO₂e
パイプライン総炭素クレジット

27.5 万 ha
パイプライン総面積

● 既存パイプライン

● 探索フェーズ

シエラレオネ

マングローブ再生

北部地区

VCS・CCB・VM0033

15,000 ha ポテンシャル

炭素クレジット潜在量: 840 万 tCO₂e

実現可能性評価中

ガーナ

森林再生・アグロフォレストリー

アシャンティ州、ほか

VCS・VM0047

50,000+ ha ポテンシャル

炭素クレジット潜在量: 2000万 tCO₂e超

大規模植栽フェーズ

ルワンダ

コミュニティ主導型アグロフォレストリ
ー

北部・西部地区

VCS・VM0047

100,000 ha ポテンシャル

炭素クレジット潜在量: 1600 万 tCO₂e超
実現可能性調査完了・PDD策定中

タンザニア ★ JCM 国

コミュニティ主導型アグロフォレスト
リー／森林再生

イースタンアーク山系

VCS・VM0047

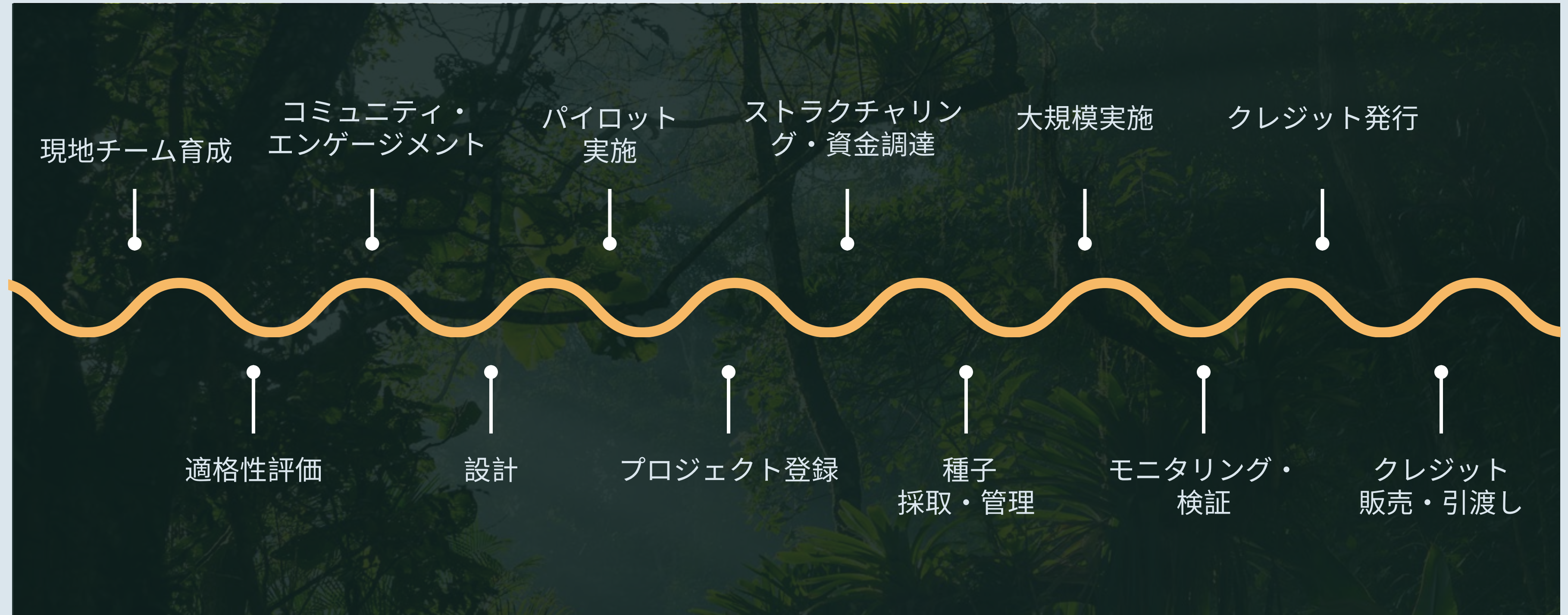
100,000+ ha ポテンシャル

炭素クレジット潜在量: 1600 万 tCO₂e超
実現可能性調査完了・PDD策定中

3Tのアプローチ

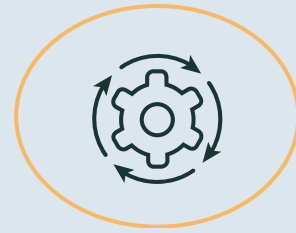
3T.

3Tは最高水準のプロジェクト成果を実現するため、事業運営を完全に一貫体制で行っています



3Tのこだわり

世界水準の専門性と現地の知見を融合し、特定のランドスケープに対して最大のインパクトをもたらすプロジェクトを実現



カテゴリー

土地の特定

炭素吸収
モデリングコミュニティとの
エンゲージメント

樹種選定

プロジェクト設計

プロジェクトの実施

結果

拡大に適した、権利
問題のない高ポテン
シャル土地の特定

投資家が信頼でき
る、データに基づい
た炭素隔離量の予測

初期段階からの信頼
構築と透明性の確保

CO₂ を吸収し、
生物多様性を高める
樹種の選定

経済・環境・社会的
ニーズを満たす最適
なプロジェクト設計

効率的な運営、地域
のオーナーシップ、
持続的かつ長期的な
インパクトの実現

グローバル

衛星画像およびGISを活用した
土地利用分析（生態系適性・
土地権利を考慮）

査読済みの研究成果やVCS認
証済みプロジェクトとのベン
チマーク比較

FPIC原則に基づくコミュニティ
関与フレームワーク
およびコミュニケーションツ
ールの導入

世界有数の研究機関および種
苗データベースとの連携・コ
ンサルテーション

グローバル基準に
基づいた財務・技術
テンプレートの標準化

品質管理（QA/QC）プロトコ
ル、資源効率基準、リモート
モニタリングの導入

現地

現地での綿密な調査、土地権
利のデューデリジェンス
およびステークホルダーの
マッピング

実地の森林インベントリー調
査および地域の成長データを
活用した炭素モデルの精緻化

地域に特化した
コンサルテーション、共同設
計ワークショップ、継続的な
コミュニティ訪問

在来種に関する地域住民の
知識の活用、および
固有種の調達

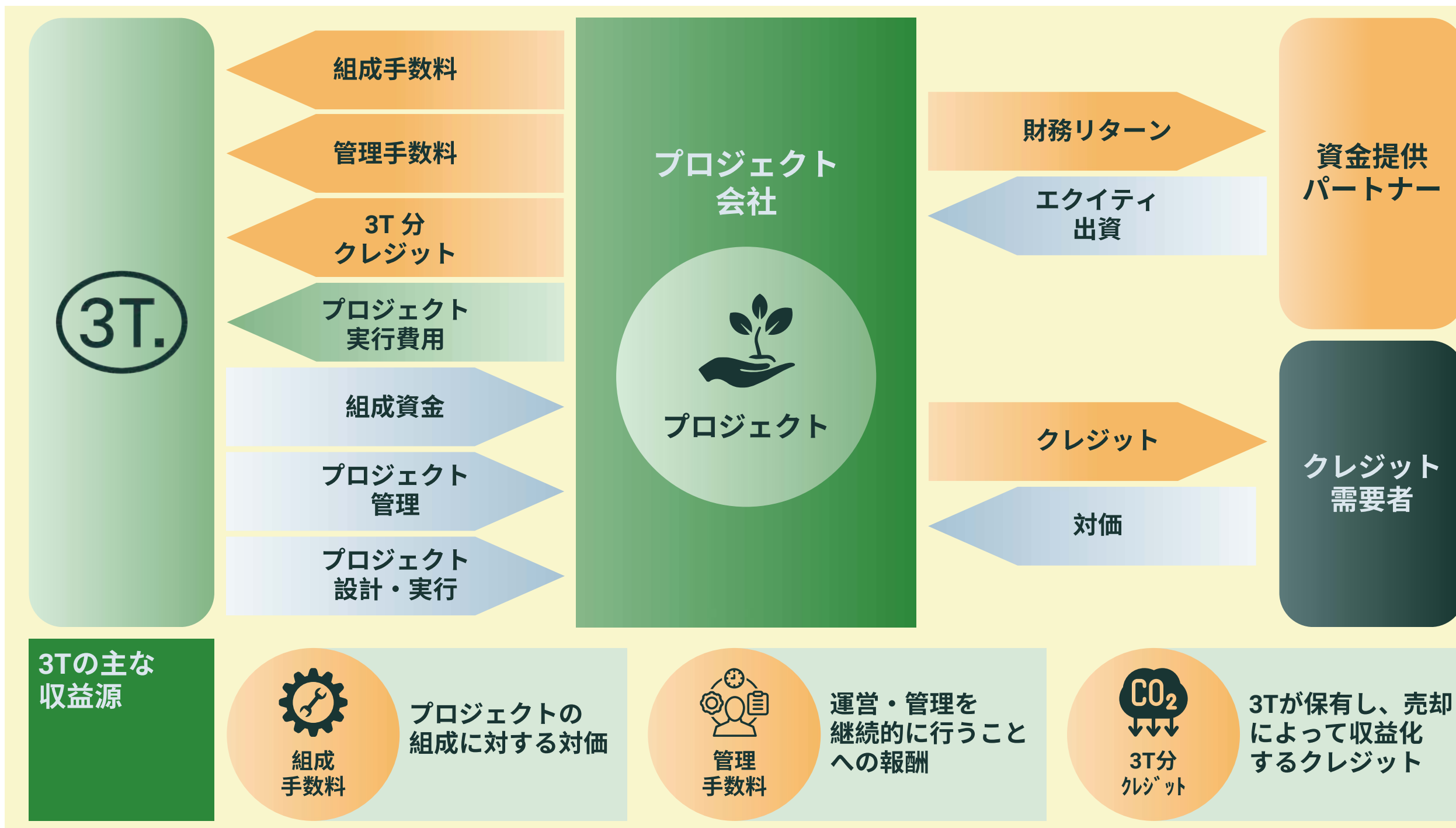
現地専門家のリードのもと、
地域コミュニティと共同でプ
ロジェクト計画を作成

地域人材の育成、動員、
および能力強化のための
トレーニング

プロジェクトの基本ビジネスモデル（3Tの場合）

3T.

- 3Tは、プロジェクト会社を通じて森林再生プロジェクトを包括的に管理し、リターンを創出する
- 収益は、プロジェクト組成手数料や管理手数料、さらに3Tが保有するクレジットの売却から得られる対価が主な柱



解説

3Tがまずはプロジェクトを組成するためにリソースを投下し、必要資金の確保へとつなげます。そうすることで、プロジェクトの拡大（植樹範囲の拡大）を実現し、3Tを含むすべての関係者にリターンをもたらします。

資金調達方法に関して

資金調達方法は、エクイティ出資かクレジットの買い手とのオフテイク契約の2種類があります。オフテイク契約による資金調達では、将来的に納品するクレジットに対してプリペイメント（先行支払い）を受け取る形となります。

プロジェクト会社

プロジェクトを包括的に管理するために専用のプロジェクト会社を設立し、エクイティ出資やオフテイク契約もこのプロジェクト会社を通じて行われます。クレジットや3Tの収益などのリターンも、同様にプロジェクト会社を介して提供される仕組みです。

現地での実行に関して

現地でのプロジェクトの導入にあたっては3T現地法人が実行費用を受け取り、実際のプロジェクト運営を一貫して担います。

3T の強み

日本人が経営するカーボンクレジットデベロッパー

「アフリカ×植林」の先行優位性を持ち、オペレーションまで一気通貫で実施し、クオリティの高いプロジェクトを実現

高いROI	現時点での植林クレジットの主産地である南米と比較しても、アフリカは土地代・人件費が安価であり、コスト面で優位性を出しやすい。
優位性	アフリカで植林プロジェクトに取り組むデベロッパーは現時点では多くなく、先行優位性を確保し、国債市場でリーダーとしてのポジションを確立することが可能。
一気通貫	プロジェクト設計だけでなく、アフリカ各国にて現地で森林の専門家や現場スタッフを雇用して自社でオペレーションを行っており、着実かつ高品質なプロジェクト運営を実現。
日系企業	アフリカにおける森林再生系クレジット開発で唯一の日系企業。CEO（清水）もプロジェクト設計の責任者(松尾)も日本人であるため、日本基準でのクオリティコントロールを実現し、コミュニケーションコストも低い。クレジット販売やPJ出資時にも日系企業からの信頼を得られやすい。
広い守備範囲	国際的、かつ日本語ネイティブなチームのため、国際市場に向けたボランタリークレジットも、日本のコンプライアンス市場に向けたJCMの開発の両者とも可能。



高品質クレジット実現に向けた3Tの取り組み



- 3T は森林再生や、生物多様性分野で世界をリードする調査機関やスタートアップとの協業を実施している
- その他にも、地域住民との共益を意識したプロジェクト開発や、追加認証の取得など高品質を意識した取り組みを行う

生物多様性に関する取り組み

産学連携



森林再生や生物多様性分野のリサーチを世界的にリードするWageningen大学在籍の研究者とともに、バイオアコースティックセンサー（音感知）を使った生物多様性モニタリングの実施をします。

ベンチャーとの協業



生物多様性モニタリング市場の日本リーダーであるBiomeと共同で、カメラトラップを使用した生物多様性モニタリングも行っています。

自社調査



さらに、植樹エリアを区分けし、成長率や生存率を計測することで、将来的なオペレーションの向上に貢献しています。



地域コミュニティに向けた取り組み



解説

3Tは、人権を尊重し、現地コミュニティとの協力を重視したプロジェクト運営を行っています。FPIC（自由意志による、事前の、十分な情報に基づく同意）を確実に実施し、地域住民の権利を保護しながらプロジェクトを進めています。また、プロジェクトから創出されるクレジットの最低10%をコミュニティに還元し、地域社会の持続的な取り組みを支援しています。

その他の取り組み

自社ポリシーの策定

CORSIA, MSCI, Microsoft, などの公表アプローチを参考に3Tの高品質ポリシーを策定し、それに則りプロジェクトを開発

CCP 認証メソッド

ICVCM が主催する CCP に認定された VM47 という森林再生メソッドロジーを使用することで、クレジットの品質を保証

追加認証

Amazon が開発した Abacus（アバカス）という追加認証取得を念頭にプロジェクトを設計

3T 独自のモニタリング方法



- ・カーボンクレジットの認証団体からの要求事項に加え、弊社独自で追加的に生物多様性モニタリングを行っている
- ・今後ドローン×Lidarを用いたD-MRV（デジタルMRV）を導入し、効率的に広範囲の炭素量のモニタリングを行う予定

生物多様モニタリング



写真1：カメラトラップの設置風景

解説

通常のプロジェクトは生物多様性のモニタリングは必須ではありませんが、弊社は高品質なクレジットの生成に向けて、また投資結果の見える化のため、プロジェクトサイト内の生物多様性に関するモニタリングを行っています。

メリット

生物多様性のモニタリングにより、炭素吸収だけでなく生態系全体への効果を証明し、高品質なクレジットの生成が可能になります。これにより、プロジェクトの差別化が図れ、透明性と信頼性が高まり、より高価格での取引が期待できます。

LiDAR 搭載ドローンによる炭素蓄積量の推定



解説

LiDAR センサーを搭載したドローンで樹高や樹冠体積、バイオマスを推定し、炭素吸収量を計算します。そのデータを強うし、3Dモデルを用いて植生の堆積や成長率を測定する予定です。

メリット

LiDARセンサーを搭載したドローンを活用することで、広範囲の森林を短時間で効率的に測定し、樹高や樹冠体積、バイオマスを高精度に推定できます。これにより、地上調査が難しい地域でも正確な炭素吸収量のデータを取得可能となり、カーボンクレジットの信頼性が向上します。

3T ルワンダプロジェクト



02

3Tガーナプロジェクト

3T ガーナプロジェクト

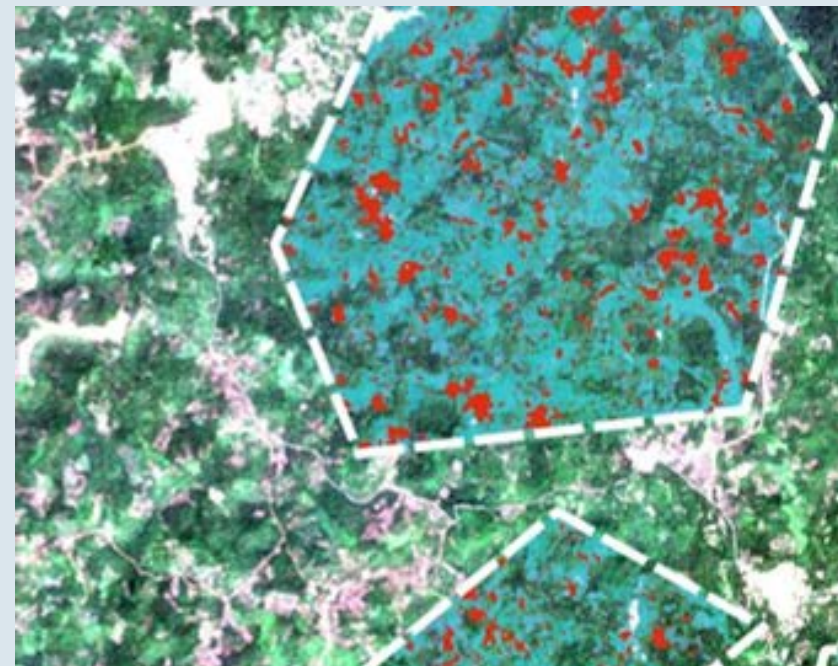


- 3Tはガーナの2箇所で 10年で 50,000 ha を目指し森林再生・炭素プロジェクトの導入を進めている
- 地域コミュニティと協力しながら、生物多様性に配慮し、在来樹種を植えるプロジェクトを実施している



ガーナ・プロジェクト概要

ガーナ案件は現在、関西電力および東京ガスと協力し、規模拡大に向けて開発中



3T.

ガーナで失われた多層構造の落葉樹林を再生し、生物多様性を回復させ、サバンナの拡大を食い止める。

50,000 HA

拡張可能面積

30種以上

対象樹種数

2,000万トン

クレジット総発行量

850万ドル

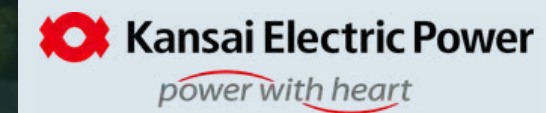
契約済み金額

13億ドル

総予測収益

42.5万トン

年間平均クレジット発行量

資金調達
パートナー

A 評価

Sylvera による評価

技術的要件

スタンダード

方法論

登録状況

VCS

VM0047

登録済 (ID: 4126)

(トランジション中)

PJ 種類

期間

運営状況

ARR (森林再生,
ANR, アグロフォ
レストリー)

40年上

2026 年に 2,000ha の植栽準備中

コミュニティへのコミットメント

プロジェクト実施地域の コミュニティとの利益共有

直接雇用



80%

プロジェクト周辺地域の
コミュニティから、従業員の80%
以上を直接雇用

コミュニティ・ベネフィット



20%

プロジェクト利益の20%を、地域
コミュニティにベネフィットシェ
アリングプログラムを通じて還元

利益分配プロセス

①

詳細な
コミュニティ
実態調査

各コミュニティの社会経済状況、ニーズ、要望を把握するための詳細なベースライン調査を実施。

②

地域利益共有
委員会（CBSC）
の設立

多様なコミュニティグループが参加する地域利益共有委員会（CBSC）を設立し、地域からの利益共有に関する提案や苦情を収集。

③

提案と実施

コミュニティから提出されたベネフィット提案（活動計画）を現地スタッフが支援して精査し、CBSCと3Tメンバーによるレビュー後に実施。

④

モニタリング
と評価

ベネフィットプログラムの利用状況と効果をモニタリング・評価。③と④を定期的に繰り返し、新規エリアへ拡大する際には新たなベースライン調査およびCBSCの設立を実施。

フォレスト・インベントリの実施

3T.

プロジェクト実行エリアなどの炭素貯蓄量をより正確に把握するため、フォレスト・インベントリを実施

インベントリを行うことで、論文や衛星データベースよりも正確にプロジェクトの炭素吸収量の算定が可能に

フォレスト・インベントリ

炭素プロジェクトの文脈において、森林インベントリーは特に森林の炭素蓄積量とその経時的な変化を正確に測定・モニタリングすることに焦点を当てたものです。これはプロジェクトのインパクトを示し、炭素基準への準拠を確実にするための重要な基礎となります。

現場での取り組み

現地での森林インベントリー作業では、プロジェクト地域内に長期的な調査用のサンプルプロット（PSP）を設置します。現地チームは各プロットにおいて、樹木の胸高直径（DBH）や樹高を計測し、樹種を特定します。また、樹木の健康状態や攪乱の兆候、幼木（更新）の有無を記録します。さらに、正確なモニタリングのために、土壌サンプルの採取やGPS座標の記録を行う場合もあります。

チーム体制

今回、3Tガーナチームが総動員されたほか、テクニカル担当の松尾、CIPからはイェール大学で林業を専攻したセスが現地入りし、トレーニングを実施した上で作業を行った。



03

3Tタンザニアプロジェクト

タンザニア・プロジェクト概要

タンザニア案件は、地域コミュニティの強力な支援を受けて始動



3T.

東アフリカ弧山地帯（世界 20 大生物多様性ホットスポット）で森林再生・アグロフォレストリーを実施し、炭素と生物多様性を同時に回復

100,000 HA

拡張可能面積

1,600万トン

クレジット総発行量

4万ドル

契約済み金額

43KT

年間平均クレジット発行見込み

ファイナンス
パートナー

日系の大企業2社（非公開）

技術的要件

標準

Voluntary/
Compliance

方法論

ARR/REDD+/ICS

登録状況

PDD策定中

タイプ

ARR (アグロフォ
レストリーと森林
再生), REDD+, ICS

期間

40Y+

運営状況

パイロットは完了し、PDの作成
段階に入っている

参加型農村調査法（PRA）の実施

3T.

PRAとは、地域住民の知識やニーズを把握し、森林・農業プロジェクトを現地の実情に即して設計するための手法

3Tでは、プロジェクトの持続性と信頼性を高めるため、地域住民が主体的に関わる参加型アプローチを重視している

PRAの目的

参加型農村調査（PRA）は、地域住民との対話を通じて土地利用や生計、森林の実態やニーズを把握し、プロジェクト設計に反映させる手法である。これにより、理論上成立する計画と、現地で実行可能かつ持続可能なカーボンクレジット・プロジェクトとのギャップを埋める。

現場での取り組み

2025年10月にタンザニアでPRAを実施し、ベネフィット・シェアリングの枠組み構築を目的に、住民から「何を」「どのような方法で分配するのが望ましいか」をヒアリングした。

専門家によるレビュー

国連（UN）で長年社会調査に携わってきた専門家をタンザニアに招き、調査デザインの設計から現地実施までを伴走していただいた。あわせて、今後は3TタンザニアチームのみでPRAを実施できるよう、現地での研修・能力強化も行った。



ベースラインおよびHCV調査の実施

3T.

ベースラインおよびHCV調査は、プロジェクト開始前の森林・土地の状態を把握し、炭素貯蓄量や環境・社会的価値を正確に評価するための基礎調査。

3Tでは、国際基準に沿った調査を通じて、高品質なカーボンクレジット・プロジェクトの構築を重視している。

ベースライン調査

ARR（植林・再植林）カーボンクレジットでは、将来の炭素吸収量から、ベースラインや永続性リスクなどを差し引いた分のみがクレジットとして計上される。そのため、プロジェクト開始前の土地・森林の状態を正確に把握するベースライン調査が、クレジットの信頼性を左右する重要な基礎となる。

HCV調査

HCV（High Conservation Value）調査は、プロジェクト対象地における生物多様性や生態系機能、地域社会にとって重要な自然・文化的価値を特定・評価するための調査である。これにより、森林保全上の重要エリアを適切に管理し、カーボンクレジット創出と環境・社会的価値の両立を図る。

チーム体制

本調査は、3Tグローバルのプロジェクト開発チームが現地に入り、調査手法やデータ取得に関する研修を実施することで、現地チームの能力強化を行った。



04

3Tルワンダプロジェクト

3T ルワンダプロジェクト



- ルワンダでは、森林と農業を合わせたアグロフォレストリープロジェクトを実施している
- 200ha のパイロット植樹（2024,26）、自社育苗所の建設、ベースライン調査、PRAが完了している



ルワンダ・プロジェクト概要

ルワンダ案件は、 Isometricで本格始動



東アフリカ弧山地帯（世界 20 大生物多様性ホットスポット）で森林再生・アグロフォレストリーを実施し、炭素と生物多様性を同時に回復

100,000 HA

拡張可能面積

1,300万トン

クレジット総発行量

—

契約済み金額

40KT

年間平均クレジット発行見込み

ファイナンス
パートナー

募集中



A 評価

Sylvera による評価

技術的要件

標準

Isometric

方法論

Agroforestry

登録状況

登録済み

タイプ

ARR (アグロフォ
レストリー)

期間

40Y+

運営状況

パイロット完了、PD作成中

参加型農村調査法（PRA）の実施

3T.

PRAとは、地域住民の知識やニーズを把握し、森林・農業プロジェクトを現地の実情に即して設計するための手法

3Tでは、プロジェクトの持続性と信頼性を高めるため、地域住民が主体的に関わる参加型アプローチを重視している

PRAの目的

参加型農村調査（PRA）は、地域住民との対話を通じて土地利用や生計、森林の実態やニーズを把握し、プロジェクト設計に反映させる手法である。これにより、理論上成立する計画と、現地で実行可能かつ持続可能なカーボンクレジット・プロジェクトとのギャップを埋める。

現場での取り組み

2025年10月にタンザニアでPRAを実施し、ベネフィット・シェアリングの枠組み構築を目的に、住民から「何を」「どのような方法で分配するのが望ましいか」をヒアリングした。

専門家によるレビュー

国連（UN）で長年社会調査に携わってきた専門家をタンザニアに招き、調査デザインの設計から現地実施までを伴走していただいた。あわせて、今後は3TタンザニアチームのみでPRAを実施できるよう、現地での研修・能力強化も行った。



ベースラインおよびHCV調査の実施

3T.

ベースラインおよびHCV調査は、プロジェクト開始前の森林・土地の状態を把握し、炭素貯蓄量や環境・社会的価値を正確に評価するための基礎調査。

3Tでは、国際基準に沿った調査を通じて、高品質なカーボンクレジット・プロジェクトの構築を重視している。

ベースライン調査

ARR（植林・再植林）カーボンクレジットでは、将来の炭素吸収量から、ベースラインや永続性リスクなどを差し引いた分のみがクレジットとして計上される。そのため、プロジェクト開始前の土地・森林の状態を正確に把握するベースライン調査が、クレジットの信頼性を左右する重要な基礎となる。

HCV調査

HCV（High Conservation Value）調査は、プロジェクト対象地における生物多様性や生態系機能、地域社会にとって重要な自然・文化的価値を特定・評価するための調査である。これにより、森林保全上の重要エリアを適切に管理し、カーボンクレジット創出と環境・社会的価値の両立を図る。今後実施予定。

チーム体制

本調査は、3Tグローバルのプロジェクト開発チームが現地に入り、調査手法やデータ取得に関する研修を実施することで、現地チームの能力強化を行った。



現場からの学び：植林プロジェクトを想定通りに進めるために必要なこと ③T.

一般的な課題

3Tの対応

①

現地パートナー探し
(業界全体として、信頼できる団体は途上国では限定的)

現地法人・現地チームを自社で保有し、外部依存を最小化

②

成長・生存率の予測の難しさ (自然相手ゆえのブレ)

保守的な見積もりを基本に、フォレスト・インベントリで実測データを継続収集し精緻化

③

各国で異なる制度対応
(VCS・Isometric等スキームが並行)

各国ナショナルダイレクターが現地知見を持ち、グローバルチームと連携して対応

④

資金調達 (クレジット収益化までのタイムラグ)

エクイティ出資とオフテイク契約を組み合わせ、プリペイメントで先行資金を確保

Take Home Message

3T.

①

3Tは高品質なクレジットの創出を目指す日系の植林PJディベロッパーで、現在はガーナ、タンザニア、ルワンダでプロジェクトを実施中・パイプラインPJも多数あり

②

3Tは、グローバルな専門性と現地チームの実行力を組み合わせ、地域コミュニティとともに持続可能なカーボンプロジェクトを構築している

③

高品質なARRカーボンのクレジットの創出には、ベースライン調査やHCV調査など、初期段階での科学的かつ慎重な調査・裏付けが不可欠である

次のステージへの到達を支援して下さる投資家を募集しています



Seed Round



150 万米ドル



18 か月分のランウェイ



8月末完全クローズ



\$ 8.5M Pre

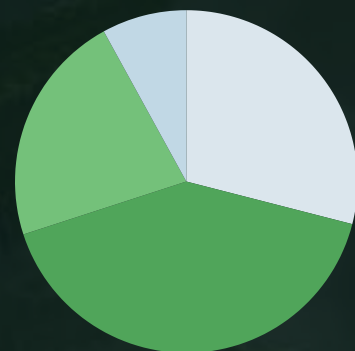


カーボン市場やインパクト
投資に親和性の高い投資家



戦略アドバイザー就任・
取締役席の提供可能

USE OF FUNDS



- 29% - 現地プロジェクト運営費
- 41% - 人件費
- 22% - 管理費
- 8% - テックおよびPJ効率化



GET IN TOUCH

MISAKI MATSUO
misaki@3t.eco

